

みんなの公園(インクルーシブな 公園)づくり基本計画

令和4年
奈義町

1 基本計画策定の目的

奈義町総合運動公園は、平成30年度に複合遊具を設置して以来、子育て世代を中心に多くの人々の憩いの場として親しまれていますが、すべての人が公園や遊具で遊べるわけではありません。

そのため、子どもからお年寄りまで、また、障がい等の有無に関わらず、すべての人が自分の力を生き生きと発揮し、ともに遊び、学ぶことを通して、地域住民が交流を広げ、本町の総合運動公園がインクルーシブ（※1）な町づくりの象徴となることを目的として、本基本計画を策定します。

※)1…インクルーシブとは、「あらゆる人が、孤立したり排除されたりしないよう
援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念。

(参 考)

公園の利用者層は、次のとおりとなっています。

平日

- ①早朝→ウォーキング（老若男女）
- ②午前→赤ちゃんとお母さん（ベビーカーでの散歩）
社会人、営業（外回り）の打ち合わせ
- ③昼間→未就学児連れのお母さん方
- ④昼休み→社会人等の休憩場所
- ⑤午後→幼児・園児とお母さん方
- ⑥夕方→小学生（友達と）
ウォーキング（老若男女）
- ⑦夜 →スポーツ少年団、スポーツクラブ、消防団訓練

休日

- ①町内外の家族連れ等（遊具）
- ②町内外のスポーツ団体（野球場、多目的広場、テニスコート、グラウンドゴルフ場）
- ③町外の若者（スケートボード場）

季節

- 4月…桜（花見）
ゴールデンウィーク…家族連れ（県外）
- 5月…幼稚園、小学校の遠足
- 8月（お盆休み）…おじいちゃん・おばあちゃんと孫
夏休み…スポ少等の合宿、近隣大会についてきた兄弟
- 10月…幼稚園、小学校の校外学習
- 11月…紅葉写真撮影

2 コンセプト

老若男女、障がい等の有無に関係なく遊び学べる地域住民の交流が広がる「みんなの公園」となるように、年齢、性別、障がい等の有無に関わらず、様々な利用者が見込まれる公園とします。

そこで、みんなの公園（インクルーシブな公園）づくりのコンセプトは、「子どもからお年寄りまで、障がいの有無に関係なく、多世代が豊かな遊びと交流を広げることができる公園づくり」と定めます。

3 めざす公園像

基本計画策定の目的を踏まえ、本町の総合運動公園のめざす公園像を、次のとおりとします。

公園像1

子どもからお年寄りまで、障がい等の有無に関わらず、自分の力を生き生きと発揮できる公園を目指します。（活動・活躍の場となる公園）

公園像2

すべての人が、ともに遊び学び、そして、それらを通して、地域住民の交流が広がる公園を目指します。（地域の交流が広がる公園）

公園像3

郷土愛を醸成する、地域をもっと好きになる公園づくりを目指します。（郷土愛を醸成する公園）

4 公園づくりのイメージ

(1)ウォーキングコース

あらゆる世代が利用出来る公園内の通路をウォーキングコースとして、距離表示板等を設置する。

(2)健康器具

ウォーキングコース沿いに、ゆるやかな運動で基礎体力づくりが行える主に大人(高齢者等)が利用する健康器具を設置する。

(3)多機能トイレ

複数の子どもを連れてきた親、授乳期の子どもと遊具で遊ぶ子どもを連れてきた親、障がいを持つ子どもを連れてきた親などの利用を想定した多機能トイレを、遊具の近くへ新たに設置する。

面積は40㎡程度。

内訳は、多機能トイレ、男子トイレ、女子トイレ、授乳室とする。

設備は、多機能トイレ(おむつ交換台、ベビーチェア、オストメイト対応トイレ、洋式便器、洗面台)、男子トイレ(小便器2、親子トイレ1、洗面台1)、女子トイレ(洋式便器1、親子トイレ1、洗面台2)、授乳室(ベビーベット、ソファ)とする。障がいを持つ子どもと一緒に入れる広いトイレとする。

清潔感のある明るいトイレとする。

案内表示はピクトグラムや視覚的にも分かりやすい色表示とする。

(4)ベンチ

芝生広場の周囲に、遊具で遊ぶ子ども達の見守り、ウォーキングコース沿いに、休憩ができるベンチを設置する。

(5)休憩所

芝生広場周辺に、休憩所となる木陰(パーゴラ等)を設置する。

(6)インクルーシブ遊具

芝生広場の丘(斜面)を生かしながら、既存の複合遊具と組み合わせた遊び場とする。誰もを受け入れられる場所として、**インクルーシブな遊具や砂場**等を設置する。その際、砂場については、動物の進入やガラス等の危険物の混入防止に配慮したものとす

る。

(7)灰皿の撤去

みんなの公園としていくため、公園内の既存の灰皿は撤去する。

(8)手洗い場

車イスや高齢者、子どもに使いやすい水飲み場や手洗い場等を整備する。その際は、プッシュ式の蛇口など、いたずら防止や利用マナーに配慮したものとす

る。

(9)看板(表示)

ピクトグラムや配色等により、すべての人に分かりやすい案内看板を設置し、公園内各施設やトイレ、健康器具等への誘導を円滑に行う。

(10)水遊び

夏場等の熱中症対策・水遊び等のため、ランニングコストに配慮した上で、噴水等を設置する。

(11)芝生広場

芝生の遊べる広場を確保する。

【資料編】

みんなの公園(インクルーシブな公園)づくり検討会を開催

みんなの公園(インクルーシブな公園)づくり検討会のメンバーは、有識者、乳幼児・保育園・幼稚園・小学校の保護者、障がい児の保護者、小学校特別教育支援コーディネーター、高齢者の公園利用者等の19名で、「高齢者も使える遊具があったら」「授乳室などがある明るいトイレが欲しい」など、こんな公園になったらいいなという意見やアイデアが多数出され、8月10日と9月2日の2回にわたり、熱心に意見交換が行われました。

ここで、みなさんから出されたご意見の一部をご紹介します。

(1) ベンチ

- ベンチがもっとあるといい。ウォーキングの途中で休憩できる。
- ベンチが少ないし、あるベンチは古くて汚れている。新しいベンチを増やしてほしい。
- 陰が無いので、木陰などで休憩できるスペースがあるといい。
- お母さん方が休憩できないので、もっとベンチがあるといい。
- もっと木陰をつくれれば、弁当なども広げて食べられると思う。
- 北東の木々の地面のでこぼこを整地すれば、レジャーシートなどを広げて休憩できる。
- 芝生広場に木陰はあるがベンチがないので、ベンチがあるといい。



(2) ウォーキング

- ウォーキングをするのにコース沿いに距離表示があったら便利。
- 距離やアップダウンなど色々なコースを作れば、色々な人(様々な目標を持った人)が来てくれるのでは。

(3) 自然遊び

- 伐採木を活用して手作りのイスやベンチがあるといい。
- 伐採木にハロウィンの絵を描いても面白い。
- 今ある木に目、鼻、口の絵を貼り付けて、木の顔（表情）を作って遊ぶのも楽しそう。

(4) 施設開放

- 多目的広場や野球場を自由に使える日を作って、缶けり等の遊びが出来たら喜ばれそう。

(5) トイレ

• 遊具の近くにトイレが欲しい。（遊具で遊んでいる子を見守りながら、別の子（女の子）を1人でトイレに行かせるのは心配なので。）

- トイレは明るい方がいい。
- 障がいを持つ子どもは、親と一緒について入らないといけないので、スペースの広い多目的トイレが欲しい。
- オムツ交換しやすい広いトイレが欲しい。
- オストメイト（人工肛門設置者）対応トイレを設置しているところも他にはある。
- 遊具の近くに授乳施設が欲しい。



(6) 手洗い場

- 手を洗うところが少ないので、遊具の周辺にあるといい。

(7) 看板（表示）

- 公園内のトイレなど施設の場所が分かりにくいので、案内図をつけて、施設の位置を分かりやすくするといい。
- トイレの位置も分かりやすく。（大きな表示）

(8) 砂場

- 砂場があったらいい。
- 水車前の池跡（現在、碎石）を有効活用して、砂場を作ってみてはどうか。

(9) 水遊び

- 川（水路）に水を流さないなら、砂場とか別の楽しいことに活用しては。
- 子供は水遊びが好きなので、水遊びが出来る場所があったらいい。
- グリーンヒルズのような下からの噴水が欲しい。

(10) 遊具

- 大人もついて行きやすい遊具が欲しい。(一緒に遊べる)
- ロープウェイに背が届かないので、台をつけて欲しい。(ロープウェイは年齢制限6歳以上とされているが、とどかない子もいる)
- 0歳が安全に遊べるエリアが欲しい。(兄弟、姉妹で遊ばせれるように)
- 遊具の上に大屋根をつけたら雨でも遊べて、陰にもなる。

(11) 健康器具

- 高齢者も使える遊具が欲しい。
- 足つぼ、懸垂、背のばしベンチなど、いろんな年代が使えるように、簡単なものが良いのでは。



(12) 芝生広場

- 芝生のスペースは残した方が良い。
- 遊具の北側が、斜面になっているのが良い。

これらのご意見を基に基本計画を策定するとともに、今後の町の公園整備や既存遊具の更新時の資料として活用していきます。

令和4年9月2日

検討会メンバー

(有識者) 柳田宏治、林 卓志、矢藤洋子

(PTA、保護者) 持田 渚、爲季美樹、元番さゆり、福田 愛、植本寛美
有元ゆかり、森藤 望、元番幸恵、寺坂 恵

(特別教育支援コーディネーター) 小林英子

(公園利用者) 巴 英樹、竹上康成、岡 秀樹、鷹取勢津子

(社会教育委員) 河上玲子

(教育委員) 野々上正成

以上19名